

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272701178		
法人名	社会福祉法人恵生会		
事業所名	グループホーム三老		
所在地	〒039-0103 青森県三戸郡南部町大字大向字仙ノ木平42番地		
自己評価作成日	平成 29年 11月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成29年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・定期的に避難訓練を行い、うち1回はマニュアル検証避難訓練と夜間総合避難訓練を行い、地域住民の方にも参加して頂いている。</p> <p>・月2回以上は、行事を計画し、楽しんで頂けるようにしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>豊かな自然に囲まれた場所にある事業所は、室内も木目調の落ち着いた雰囲気の中で利用者へのケアを実践されている。町内会や地域の小学校、隣接する介護老人福祉施設・デイサービス事業所とも積極的に地域行事等を通じて交流が図られている。また、利用者だけでなく、職員とも面接の場を設け、職員の声を反映させており、「働きやすい職場づくり」にも力を入れている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で新しい理念を掲げ、月一回のミーティング時に唱和し、理念がケアに反映されるよう心がけている。	職員で意見を出し合い、地域密着型サービスの意義をふまえた利用者にもわかりやすく表現した理念を新たに掲げ、事業所内に掲示し、月に一度唱和することで職員間での共有がなされ日々のケアに反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で町内会へ加入している。事業所の行事に地域の方を招いたり、地元の小中学校の職場体験を受け入れている。	職場体験で地元の小中学校を受け入れているほか、運動会、秋祭り、文化祭を開催し、地域の方々に声をかけ参加してもらっている。また、併設の事業所に訪問(幼稚園など)があれば参加しており、併設事業所を利用する方とも交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、実習生の受け入れを積極的に行っている。 役場主催の福祉事業にも協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い報告した事について意見を頂き、運営に役立てられる事は取り入れるようにしている。また、次回の会議の要望も聞き入れるようにしている。	町役場職員、社会福祉協議会職員、町内会長、法人理事長、利用者家族及び利用者が参加しており、行事の報告などのほか、待機者数なども共有している。また、インシデントなど事業所内で起きたリスクについても情報共有し対応を検討したりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、連絡を密に取り、相談にのって頂いたり、アドバイスを頂き連携を深めている。	具体的に、事業所内で分からないことなどがあれば電話をして確認したり、事業所に対する情報はメールで提供を受けるなど良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を年一回取り入れている。ミーティング等でケアを振り返り、行動を抑制する言動をしていないか確認するようにしている。職員の見守り方法を徹底し、鍵をかけず自由な生活を支援している。	玄関にはベルをつけ対応し、施錠はしていない。身体拘束については外部研修を受けた職員が事業所内で伝達研修を行っている。身体拘束に関するマニュアルも定められており、職員間で共有されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を年一回取り入れている。毎月接遇に関する目標を掲げ虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加回数が少なく、十分理解しているとは言えない。今まで必要とするケースがなかったが、今後学ぶ機会を持ち理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に重要事項説明書や起こりうるリスク等を説明している。疑問点や不安な事を聞き詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に状況を報告した際、何でも言って頂けるような雰囲気作りを心掛けている。また第三者からの声も聞き入れている。その意見に対し職員会議で改善に取り組んでいる。今年度はアンケートを実施したので、家族様の意見をサービスに反映させていきたい。	玄関に目安箱を設置している他に、利用者ごとに面会簿を用意し、意見を聞きやすい工夫がされている。今年度はさらに、家族アンケートも実施しており、その結果を家族、職員会議、運営推進会議にて公表しサービスに反映する体制づくりがされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見を聞き、話し合える場を設けている。管理者はその意見を代表者に伝え、運営に反映されるようにしている。	毎月のミーティングの他に、年2回職員の個人面談を実施しており、職員の声的代表者に伝えやすい環境であり、有給取得が取り易くなるなど職員の意見が、職場づくりに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格等の研修会を紹介、斡旋し、資格取得者には手当を付けている。 平成29年7月より、夜勤手当が増額となった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。またそれらの研修報告は勉強会で発表してもらい研修報告書は全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度、町内の管理者が集まり、会議を開いている。また年一回合同勉強会を行い、職員が参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時、困っている事や要望等を聞き安心できる様、アドバイス、支援している。又、面談時に限らず利用者の訴えに対しては耳を傾け聞き取る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望をしっかりと聞き、何を求めているか理解した上で、事業所としてできる対応を話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時、面談時に当事業所ですぐに対応できないと思われる時は、他のサービスの情報を提供する等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は支援する側という意識を持たず一緒に生活していく関係を築けるよう心掛けている。利用者からアドバイスを頂けるような場面をセッティングするように工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子を面会時や新聞や電話で伝え、家族の要望を聞き一緒に支援している。又、行事への参加、通院への同行も連絡、相談行い、協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接の老人ホーム、デイサービスの知人、友人との交流が行われている。家族の協力もあり、自宅への外出、墓参りも行われている。又、受診の帰りに地元のスアに気軽に立ち寄るようにしている。	隣接の老人ホームの面会者やデイサービスセンターの利用者が、友人・知人であれば交流の場を設けるなど、馴染みの人との関係が途切れない支援がなされている。また、入居前のかかりつけ医の継続や、受診後地元のスアに立ち寄るなど、馴染みの場所を大切にす支援がされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員全員が、利用者同士の関係を把握し、良い関係が築けるように環境面の配慮や、精神面の支援に努めている。関係がこじれた時は、職員で相談し、ホール内の席替えするなどして修復に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、同法人の特養へ移られるケースが多く、必要に応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の希望を取り入れるようにしているが、どうしても困難と思われる場合は、出来る範囲や、代案を検討したり、本人や家族と十分に話し合い決めている。	裁縫の要望があり、針の管理方法を工夫し以前からの趣味を継続できるようにしているなど、本人・家族の意向をできる限り実現しようとする支援がされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の面談時に生活歴や環境の聞き取りをし、入居後も、本人や家族と関わりを持ちながら情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察する事で、個々の状態を把握し、職員全体で情報交換している。又、日誌や排泄、食事、バイタルチェック表やケース記録をおこたらず、共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は本人や家族からの思いや意向、職員が記録した介護記録、職員間での意見を反映させた介護計画を作成している。	家族へは面会時に利用者の状況を伝えた上で意向を確認している、遠方に住む方達には電話などで意向を確認している。また、日々記録している介護記録や職員の意見も反映しながら、介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のファイルに1日の様子やケアの実践などを記録している。特に普段と違った様子の時は詳しく記入し、職員全体で情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時の付き添いを行ったり、買い物の代行をしている。 家族や本人に合わせその時々で柔軟な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会長様が参加するようになり、周辺情報や支援に関する情報が得られるようになった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとり、かかりつけ医があるので、継続して受診できるように支援している。職員が受診に付き添い、特変時には、家族へ報告している。薬局が施設に配達してくれる為、直接薬についてのアドバイスを頂いている。	入居前のかかりつけ医を継続しており、基本的に受診時は職員が付き添いしている。家族が受診の付き添いをする場合は、普段の状態や健康状態について情報提供し、受診しやすいように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老人ホームに看護師がいる為、気付いた事を相談したり、急変時には連絡し、指示を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、医療機関へ情報提供を行っている。入院中も訪問し、状態の確認と情報交換しながら早期退院に向けて協働するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した時や終末期に施設で出来る範囲を伝え、家族の意向を聞くようにしている。利用中も本人、家族の気持ちに変化がないか把握に努めている。	看取りは行なっていないが、家族の要望に合わせて対応できるようにしている。また、契約時に十分な説明と確認がされ、他事業所の情報提供も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命講習を受け、定期的に更新受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い利用者も参加している。年一回は夜間に実施し、消防職員や地域の方にも協力して頂き、一緒に訓練を行っている。	台風が来たり、災害が発生しそうな時は町内会長が見に来てくれている。大きなストッカーを用意し冷凍食品を備蓄するなど災害時の食料も確保している。災害マニュアルも完備し、火災報知器の使用方法についても随時伝達を行い職員が使えるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が恥ずかしい思いをする言葉遣い行為はしない様に職員間で注意合っている。	排泄の介助時など、トイレに行きましょうなどのあからさまな声掛けではなく、お部屋に行きましょうなど、声掛けを工夫している。接遇に関することは月に1回の勉強会で学習している。また、毎月管理者が課題を設定し、課題に対して各職員が個人課題を設定し、月の終わりに振り返りを行ない、質の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて、本人が答えやすいように質問したり、選択できるように働きかけ日常生活の中で、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが、一人ひとりのペースを大切にし、その人に合わせた対応を心掛けている。しかし、入浴や通院、行事等で日程が決められてしまう傾向にある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人に任せている。自己決定しにくい利用者は季節や気温に合った服を見せ、表情を見ながら一緒に選んでいる。また通院や外出時には本人の好きなおしゃれができるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに季節の野菜を取り入れ野菜の下ごしらえを手伝って頂いている。行事の時は、弁当を用意したり、外食ツアー、バーベキュー・バイキングを行い、いつもと違った雰囲気味わって頂いている。	調理を手伝ってもらえる利用者には協力して頂いたり、季節ごとの食材を加工したり、下ごしらえを手伝ってもらっている。また、一人一人の茶碗や箸などを準備してもらうなど工夫がなされている。利用者の希望に合わせて、人数を少人数に分け飲食店に外出するなどの支援も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量はチェックしており、本人の状態に合わせた食事形態で提供している。必要に応じて高カロリー食の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、声掛け・見守りをし、出来ない方には、毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎防止などに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者も時間誘導して、トイレで排泄できるように支援している。	個別に排泄をチェックする表と排泄の量や状態を記録するノートを準備している。チェックした記録は個別ケース記録にまとめて排泄の時間帯を把握したり、量的な確認を行い、トイレ誘導を行うなどの支援に役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し、排便の頻度を把握しながら乳製品や十分な水分補給、下剤で調整している。腹部が張っている時は、マッサージ施行している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週4回の入浴日を設けている。拒否のある際は、日にちをずらし対応している。入浴順番もできるだけ希望に沿うようにしている。	利用者は個浴で週2回入浴しており、基本的に午前中に入浴している。拒否がある利用者には、週の初めに声がけし、週2回の入浴の機会を得られるよう支援がされている。また、飲酒する利用者には、入浴の順番にも気を使っており、楽しんで頂ける様、時間をかけて入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の好きな時間に休んで頂いているが、夜間良眠できるように日中に活動される支援を行っている。夜間眠れない時はテレビを観たり、ホールへ来られ職員と一緒に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人のファイルに閉じ、いつでも把握できるようにしている。服薬の際は、本人が服薬しやすいようにトロミを使用するなど工夫し、飲み込みの確認をしている。薬が変更された時は本人の状態をよりいっそう注意し観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が出来そうな仕事がある時は、了承の上行って頂いている。食べたい物や、欲しい物がある時は家族に頼んだり、職員が購入してきている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事に買い物や食事ドライブを取り入れたたり、地域の行事や祭り見物へ出掛けている。本人の希望を聞き、可能な時は家族と一緒に外出されている。	利用者の希望に合わせて外出に出かけたりしている。また、職員が付き添い地域の祭りに参加したり、地域の小学校で行われている地元の伝統芸能の発表会などにも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族同意の上で、少額のお金を持っている方もいる。使い道はあまり詮索せず、好きな時に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話があり、電話をかけたい人は利用している。番号が分からない時は教えるなどして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けをして、利用者に和んで頂いている。居室により強い日差しがさしこんでいる時はカーテンを閉め調節している。エアコンや暖房を利用し居心地よく過ごして頂いている。臭い対策には脱臭機を使用している。	季節に応じた飾り付けを利用者と一緒により作り掲示している。掲示された創作物を見て利用者は話が弾み、温かい雰囲気にも包まれている。脱臭機を設置する事で居心地の良い空間づくりに配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中央廊下に椅子を置き景色を眺めたり、隣の棟の方と交流を持てるようにしている。ホールにおいては、仲の良い入居者同士が会話出来るよう席順を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物や好きな物を置いている。家族が持ってきた写真を貼ったり、ベッド棚に置いたりしている。	個人の趣味や好みにあわせて思い思いの物や配偶者の写真を枕元に置いたりしている。また、トイレが自室にあるため共用と違って他者とトラブルになることなく居心地の良い居室への配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカー、車椅子、歩行器が安全に通れるよう歩く所には障害となる物を置かないようにしている。全室、同じ扉の為、本人が自分の居室だと分かるうに見やすい位置にネームプレートをつけている。		